

富士市学校給食地場産品導入協議会 納入業者研修会の報告

平成28年2月12日（金）14：00～

岳南富士地方卸売市場 会議室

会長挨拶： 富士市は市内39校が自校方式の学校給食で、地元の納入業者が地元の野菜を届けています。卸売市場としては、この納入システムを更に良い方向に進めていくためにお手伝いしていきたいと思います。農家と納入業者と学校の相互理解、連携で「三方よし」を進めていきたいと思います。

第1部 パネルディスカッション

テーマ：学校給食を通じた地域農産物のブランド化

～エコファーマー「安藤さんのほうれん草」の成功事例から学ぶ～

パネラー： 安藤和也 氏（農家）

望月軍次 氏（富士市学校給食納入者組合 代表）

コーディネーター：小櫛和子（富士市学校給食を考える会 会長）

（内容）

小櫛：「富士市学校給食地場産品導入協議会」設立のきっかけは、私たちが、環境にやさしい農業・エコファーマーの農産物を学校給食に使えないか相談しに富士農林事務所を訪れたことでした。その時、エコファーマーの安藤さんのほうれん草が、すでに一部の学校で使われていることを知りました。「協議会」ができたことで、富士市の学校給食では、地元エコファーマーの野菜を積極的に取り入れるようになりましたが、農家としていかがですか？

安藤：農家として、ずっと自分の子どもや孫にも安心して食べさせることができる野菜や米を作ってきました。エコファーマー登録は、富士管内で3番目だと思います。エコファーマーになり、肥料の成分を調べ、県のアドバイスで肥料の回数を減らしたら、翌年は半分くらいの収穫量になってしまいました。その後は有機肥料などを追加して調整しています。

路地のほうれん草は、虫や病気のリスクが大きいです。昨年秋は、8反のほうれん草が、葉の変色などで出荷できませんでした。今の時期は、農薬を使わなくても質の良いほうれん草を出荷できます。毎日畑を見回って、異常があれば早めに手当てしていますが、暖かくなるとどうしても消毒が必要な時もあります。

小櫛：「農家の出前授業」は、子どもたちには人気です。教育的効果も大きく、希望する学校も増えてきていると思いますが、農家の立場としてはいかがですか？

安藤：子どもたちに農業への理解を深めてもらうためには、必要なことだと思います。子どもたちに、「この袋（安藤マーク）見たことある！」と言われると嬉しいです。ただ、11月以降の忙しい時期に「出前事業」の要請があると大変です。

小櫛：「協議会」で、地元の里芋の生産量が減ってきているという話が出たとき、安藤さんが「タケノコ芋」が代わりになれば作ってもいいと提案されましたが、その後どうなりましたか？

安藤：2年前に作りましたが、学校からの注文があまりなかったのもので、去年は作る量を減らしました。「エビイモ」は名前が知られていますが「タケノコ芋」は名前も知られていないからかと思います。

小櫛：「稼ぐ農家になるための3つの要素」は、

1. 相場に振り回されない独自の販路を確保すること。
2. 極力農薬を抑えることでコストを削減し、農産物の付加価値を付ける。
3. 売れるものを作る。

と言われます。

富士市では、学校給食で利用することで、この3要素を満たすことが可能となります。

そのためには納入業者の皆様のご協力も不可欠だと考えます。

昨年夏に設立した「富士市学校給食納入者組合」について、ミドリヤさんからお願いします。

望月：学校給食へのサービス向上を目指し、学校から信頼される納入業者になるための組合です。卸売市場の協力で共同買付による価格の安定化を図ったり、緊急時のホロー、業者が廃業したときの受け皿、苦情の受け皿になれるよう、月1回会合を開いて業者同士の情報交流を進めていきます。

小櫛：組合に入会するにはどうしたらよいですか？

望月：学校給食や保育園の納入業者が対象です。加入手数料が3万円（組合の諸経費、予備費とします）。希望者は商協に申し込んでください。

第2部 意見交換

★里芋の件も含め、情報が共有できていなかった。地場農産物の旬、量やサイズ、地元で生産できる野菜、給食で使いたい野菜等の情報交換がもっと必要なことが分かった。

★納入時間なども、学校行事や調理の都合もあるので、業者と学校が個別に相談する。個々でコミュニケーションをとっていくことが大切だが、個々で対応できないものは教育委員会と組合がそれぞれ窓口となって相談できる体制を整えていきたい。

★給食の献立表は業者に渡すように伝えてあるので、栄養士などが渡し忘れては請求してください。月末に翌月分を作成するので、渡し忘れることがあると思います。

まとめ 講評 （富士農林事務所）

県の27年度事業で「高校生の学校給食メニューコンテスト」を行ったが、高校生たちが自分たちの小学校の給食を良い思い出として語り、後輩の小中学生のための給食メニューを作ってくれた。県内の他の管内と比べても富士市の取り組みは先進的です。これからも良い方向に進んでほしい。